



2018年5月24日 奥浅草だより 第2号

石濱神社と素戔雄神社の本祭り

東京で一番古い寺・浅草寺の開基が857年。荒川区南千住にある石濱神社と素戔雄神社はそれより古く、700年代に鎮座されました。山谷というと台東区と荒川区にまたがっていますが、この南千住には有名な浄閑寺、小塚原回向院、延命寺がありいずれも1600年代以降の開基です。

その歴史ある石濱神社（白髭橋西詰北）の例大祭が5月25-27日、素戔雄神社（南千住6丁目）の天王祭が6月1-3日に行われます。両社とも隔年の本祭り。石濱神社では、大祭式のほか、ライブ、大道芸、ものづくり市が開かれます。素戔雄神社の天王祭は、千貫の神輿を二本の棒で担ぎ、左右に大きく揺れる勇壮な祭りで有名です。

橋場地区（旧山谷の一部）の近況

石濱神社の氏子は、荒川区南千住と、明治通り南側の台東区橋場に拡がっていて、本社神輿渡御が盛大に行われます。そこで、橋場地区の最近の動きを見てみましょう。隅田川沿いは、かつての有名人の別荘の後に地割の大きい公共系の建物が連なっています。そのうち、東京都人権プラザ分館は2018年3月に閉館となり、港区芝の本館で同和問題の相談を受け付けることになりました。また、この並びに大規模の老人ホームが開館しました。浅草病院も並びにあります。さらに長い建設期間の後、スーパーのオーケー橋場店がオープンしました。買い物に不便な地域だけに期待されていましたが、この店は1階が駐車・駐輪場で2階から上が店になっていますのでちょっと立ち寄るには不便です。

いずれにしてもこの山谷地区東部は大規模な集合住宅が建ち並んでいますが、南千住駅近辺を除いては交通が不便で、商店街は静か。いまもなお、通勤・通

学には覚悟の要る地域でしょう。

この「奥浅草だより」は、『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の制作でとくにお世話になった 25 名の方にお送りしております。 著者=佐野陽子・江原晴郎 編集=森下恒子

info@sanox.co.jp